Japan Evangelical Theological Society

日本福音主義神学会

J・E・T・S・NEWS Vol.41

発行所／460-0022　愛知県名古屋市中区金山2丁目1-3　東海聖書神学塾内
学会サイト・アクセス　http://evangelical-theology.jp

時代の破れ口に立つ神学を

全国理事長　関野 祐二

6月の全国理事会で、思いがけず全国理事長を仰せつかりました。現職に就いた翌年2004年からJEA神学委員会に加わり、その翌年にはJETS東部理事会にも招かれて、以後は今はやりの二刀流で歩んだことになります。3月にJEAでの働きを終えたこの節目に、改めてその意味を考えました。

世には多くの学問分野があり、各々に学者や専門家がいて、学会が構成されています。包括的な括りもあれば、細分化された特定分野の学会もあるでしょう。その多くは我々一般人に馴染みの薄い、目の届かぬ場で活動していますが、共通項は、世界を理解し、環境を守り、人類の幸福と発展に寄与するための学会です。では、我ら日本福音主義神学会JETSはどうか。ホームページ記載の規約によれば、1970年4月に、聖書の十全霊感を信じる福音主義キリスト教の立場に立つことを共通の教義とし、教会の健全な成長と発展のために奉仕することを目的として誕生しました。要約すれば、福音主義(福音派)教会に仕える学会ということです。

自らを顧みれば、JEAという福音派教会の宣教協力団体は抵抗なくとも、地域教会の牧師以上でも以下でもない立場でJETSにかかわることに、当初は戸惑いと居心地の悪さを感じました。しかし、「教会に仕える」という目的があり、そのための学究の場であるならば、専門性に差異があろうとも、関わる意義があると思いを改めたことでした。その意味でJETSは神学者のみならず、地域教会に仕える牧師はもとより、神学生や信徒にも開かれた場であります。いやむしろ、教会に仕えるとの発想に乏しい単なる学究機関であってはならないでしょう。

年初に招かれたある団体の聖会で、「破れ口に立つ」(エゼキエル22:30)とのテーマを掲げ、時代の破れ口に立ってリスクを背負い、預言者と祭司の働きを兼ね備えた教会の一員として仕える姿勢を共有しました。以来、いくつかの場で同じみことばを聞くにつれ、これは自分だけの時代感覚ではなく、ある意味普遍性があるテーマであったとの思いを深めたものです。では、時代の破れ口に立つ神学とは何か。今流行(はやり)のトレンド神学でしょうか。問い直されるべきは教会が宣べ伝える「福音」の豊かさとその普遍性でしょう。破れたこの時代に通用するのは、目新しさよりも、神学的に深められ、より本質を突いたいのちみなぎる福音のはず。その追求に全力を投じ、刷新すべきは刷新し、守るべきは守る、そんな神学会であってほしいのです。ホンモノの神学は必ずや地域教会を元気づけ、より主を愛するよう促すはずですから

(聖契神学校校長)

◆各地区部会報告◆

東部部会報告

1. 理事会構成
◎役員理事：理事長　大坂太郎
書記　三浦譲
会計　岩上敬人
◎学会誌　：三好明、平塚治樹
◎部門理事：聖書神学　平塚治樹
歴史神学　丸山悟司
組織神学　渡辺聡、関野祐二
実践神学　福井誠、岡村直樹

2. 研究会・講演会
春期研究会：
2017年6月12日（月）、OCC411号室 14:00-16:30
テーマ：「ルターの宗教改革500周年 サテナニヲイワオウカ」
講師：正木牧人氏（日本福音主義神学会全国理事長）
参加者67名

3. 第15回全国研究会議：2017年11月6日（月）-8日（水）、
OCC8階チャペル（東部部会主催）
テーマ：「3つの『のみ』の再発見」宗教改革500年によせて
講師：内田和彦氏（前橋キリスト教会牧師）
鎌野直人氏（関西聖書神学校校長）
稲垣久和氏（東京基督教大学教授）
河正子氏（東京基督教大学講師、
NPO法人緩和ケアサポートグループ）
山崎ランサム和彦氏（リバイバル聖書神学校校長）　ほか
参加者162名

4. 会員移動
＜入会＞（正会員）井野正人氏、石倉満氏、山口希生氏、
三原識文氏、天野孝則氏、
（準会員）永井創世氏、井上淳氏、林博之氏、
下村明矢氏、住友暁氏、川村清治氏
＜退会＞　宮村武夫氏
（2018年3月現在：
正会員：136名、準会員15名、賛助会員12団体）

5.2018年度理事会
役員会　：関野祐二（理事長）、三浦譲（書記）、岩上敬人（会計）、聖書神学：平塚治樹、大坂太郎、歴史神学：丸山悟司、組織神学：岡村直樹、実践神学：福井誠、渡辺聡、学会誌：平塚治樹

中部部会報告

1. 理事会構成
◎役員理事：理事長　山崎ランサム和彦
書記　田中忍
会計　関昌宏
◎理事　学会誌　檀原久由（学会誌）
広報　大庭貴宣（広報）
会計監査　河野勇一（会計監査）

2. 研究会・講演会
春期公開講演会2017年5月16日（火）、金山キリスト教会
テーマ：「近代主義—聖書のバビロン捕囚」
講師：藤本満氏

秋季研究発表会2017年11月20日（月）、金山キリスト教会
テーマ：「『信仰』をめぐる近年の神学的論議」
講師：山崎ランサム和彦氏

3. 中部部会報18号
檀原久由「巻頭言」
藤本満「聖書のバビロン（近代）捕囚」
山崎ランサム和彦
「救いを与える信仰—『信仰』をめぐる近代の神学議論」
河野節子「聖書に見る『食べること』」
下沢賢司、神戸輝明、永江桂子、中山創、中村光芳、柳橋宏祐
「感想文—日本福音主義神学会第15回全国研究会議に参加して」
松浦剛「聖書 新改訳2017の読後感」

4. 会員移動
＜転会＞山崎ランサム和彦（東部部会へ）、
吉澤慎也（東部部会へ）
（2018年4月現在：正会員21名、賛助会員1団体）

5.2018年度理事会
檀原久由（理事長）、関昌宏（書記）、池上泉（会計）、大庭貴宣（学会誌）、会計監査（河野勇一）、下山孝佳（広報）

西部部会報告

1. 理事会構成
◎役員理事：理事長（全国理事長）正木牧人
書記　岸本大樹
会計（全国会計）　鎌野直人
◎理事　安黒務；学会誌担当、ホームページ担当、
記録作成顧問
大田裕作；沖縄連絡担当
金井由嗣；沖縄連絡担当
坂井純人；学会誌編集
杉貴生；九州連絡担当
高木実；九州連絡担当、会員獲得
瀧浦滋；メディア広報、会員獲得
南野浩則；メディア広報
吉田 隆；会計監査

2. 研究会・講演会
春季研究会議：4月24日(月)、関西聖書神学校
テーマ：「諸力としての罪」
講師：山口希生氏（東京基督教大学共立研究所所員）
応答：川向肇氏（兵庫県立大学大学院准教授）
坂井純人氏、正木牧人氏、吉田 隆氏
研 究：青木保憲氏
（城東福音キリスト教会牧師、同志社大学嘱託講師）
「トランプ新大統領と米国福音派の動向」
伊佐治洋平氏（単立・垂水福音教会副牧師）
「＜キリストのいやし＞の今日的意味についての一考察」
松元百合香氏（コイノニア福音教会牧師夫人）
「聖書が教える牧師夫人の姿に近づきたくて」
中川和哉氏（神戸ルーテル神学校神学生）「教会の循環論」
南野浩則氏「近代における＜自由＞の概念について」
李在永（イ・ジェヨン）氏（神戸改革派神学校研修生）
「ハンナ・アーレントの悪の凡庸性概念と人間の道徳性の考察」
コーディネーター　杉貴重氏、安黒務氏、鎌野直人氏

九州地区・講演会：3月21日(水・祝)、
九州福音フェローシップ香住ヶ丘キリスト福音教会
テーマ：「聖書翻訳 新改訳2017について」
講師：内田和彦氏（日本福音キリスト教会連合前橋キリスト教会）

3. 会員移動
＜入会＞徳田信氏、才脇弘道氏、加藤 満氏
＜退会＞岩崎幸三氏、春名裕氏、高見一男氏、荒川隆志氏

4.2018年度理事会
瀧浦滋（理事長）、岸本大樹（書記）、石崎伸二（会計）、
理事：大田裕作、金井由嗣、鎌野直人、坂井純人、杉貴生、
袴田康裕、正木牧人、南野浩則、吉田隆

学会誌報告

1. 学会誌編集委員：安黒務（長）、坂井純人（西部）、檀原久由（中部）、平塚治樹（東部）、三好明（東部）

2. 49号特集テーマ：「福音の理解—義認をめぐって」

3. 執筆予定者：内田和彦、水草修、安黒務、檀原久由、他

◆全国理事会及び全国研究会議準備委員会議事録◆

日時：2018年6月4日（月）11:00-16:00
場所：名古屋国鉄会館会議室7階ひかり
出席者：（敬称略）
東部部会　関野祐二（全国理事長）、平塚治樹
中部部会　檀原久由（全国書記）
西部部会　瀧浦滋、石崎伸二（全国会計）、坂井純人（学会誌長）、正木牧人（前全国理事長）　以下7名

Ⅰ. 全国理事会
御言葉と祈り：西部理事長（瀧浦）詩篇107:1、ヨハネ5:1-9
暫定書記に石崎が指名される。

【報告事項】
1. 各部会報告（2017年度活動報告、総会報告、会計報告等）
・東部（関野）：理事会構成が変わった。新役員会：関野祐二（理事長）、三浦譲（書記）、岩上敬人（会計）、聖書神学：平塚治樹、大坂太郎、歴史神学：丸山悟司、組織神学：岡村直樹、実践神学：福井誠、渡辺聡、学会誌：平塚治樹。
・中部（檀原）：新役員は、理事長：檀原久由、書記：関昌宏、会計：池上泉、学会誌：大庭貴宣、広報：下山孝佳、会計監査：河野勇一。現在会員は減少傾向にある。
・西部（正木）：九州に部会を開くことを推進している。沖縄地区との交流を図っている。有給で事務をお願いしていた方がいたが、元に戻し、昨年3月で事務を引き継いだ。新理事長：瀧浦滋、書記：岸本大樹、会計：石崎伸二。新年度の西部部会では、春は身体性、秋はマリア論について学ぶ予定。会員は約150名。減少傾向にある。教派立の神学校の協力体制がある。
・全国会計報告（石崎）：全国研究会議の会計報告が挙がっていないので、担当者（岩上）から会計報告を出してもらう。今後の支出を考慮して、修正したものを全国書記に送るように求めた。
理事会は、2017年度の各部会報告・会計報告等を承認した。

2. 学会誌編集委員会報告
坂井委員長から資料に基づき報告があった。編集委員の人事の変化、出版行程の変化、広告収入の件の報告等があった。出版が遅れたので、掲載ルールを作った。平塚より、2018年度から組み版を担当していた吉川がいなくなるので外注となった旨の説明、校正担当の必要、費用の増加の報告が挙がった。今後、校正経験者が必要になるので探す。学会誌売上の予算を5万円に修正し、名簿作成費の項目を削除することを確認して、理事会は2017年度会計報告を承認した。

【審議事項】
1. 全国理事の役割分担を決定した。理事長：関野（任期2年）、書記：檀原、会計：石崎。書記がJETS誌を担当する。全国理事長が交代したときは事務引継があることから、必要に応じて前理事長の出席を求めることができることにする。その際、理事会への出席費用を一人分多く出すことを了解した。2018年度全国会計の予算案を承認した。
2. 昨年からの審議案件を話し合った。その結果、下記3件の案件を各部会に提案し、各部会での審議の結果を次回の全国理事会に持ち寄る。規約改正になるので、各部会の議を経て次回の全国理事会で決定することとする。
①役員構成の増員：全国理事会には会計監査がないので設ける必要があるが、全国理事会出席者の中から会計監査担当理事を決めれば、出席する人数を増やす必要がなくなる。第8条2項に、『会計監査担当理事』を付加する。
②事務所所在地：事務所の所在地に関しては、担当者が変わるたびに変更されているのが実情。そこで、所在地の表記に関しては、全国理事会への報告事項とする。変更が起こるたびに規約の変更手続きが必要になるので、各部会事務所所在の明示について、第11条に以下の文言を加える。『第2条の各部会の事務所所在地については、毎年全国理事会で全国書記に届け出ることで足りるものとする』。これによって、毎回の規約改正を行うことが避けられる。
③退会規定：細則には入会規定（2名の推薦と部会承認）があるのに退会規定がない。退会手続きと会員資格等について審議した結果、退会規定を加えることを提案する。退会に関する条項を加えることを各部会で了承してから、細則に入れることとする。また、入会申込書の訂正を行う。

審議の際、次のような意見交換、情報交換を行った。
・各部会報告の際に、入会者・退会者に加え、転入・転出者も報告することを求める。
・細則第2条会員資格審査は、部会でできるとある。第3条には名誉会員の項がある。決め方は部会理事会に委ね、その議を経て全国理事会で承認してはどうか。
・神学生は準会員になっているが、卒業後には自動的に正会員になるのかという質問があった。教職者や研究者になったら正会員となってもらう必要がある。入会申込書に「神学校卒業後、教職者や研究者になった場合、正会員になります」というような欄を設けてチェックしてはどうか。「教職またはそれに準ずる者」とか。書式を改訂する必要がある。「退会を希望する者は各理事会に申し出ることとする。」と明文化したほうがよい。
・会費未納者の場合は、西部は5年間学会誌を送って督促するが、6年目からは学会誌は送らず督促している。中部はできるだけ留まるように配慮しながら、学会誌を送らないことを検討している。東部は今年の7月の理事会で検討する。
3. 西部部会から提案のあった『三位一体』という文言を第3条に加える件について、東部部会と中部部会で検討することになっている。今後話し合う必要があるので、西部部会に対して本提案の趣旨を明文化した文書の提出を求めることとした。西部部会の11月19日の理事会で検討する。
4. 学会誌：投稿論文について掲載の要求を求め続ける会員があり、対応に苦慮しているとの報告があった。事務的に対応してもよいが、もともと投稿論文のスタートは人材発掘の意味もあった。「所属部会の理事が内容に関する推薦状を付して投稿することもできます」というような文言を入れたり、募集要項を変更したり、工夫を考えてはどうか。結局、理事会ではなく編集委員会に論文掲載の可否の権限、編集方針の権限を委ねることとした。2018年度予算案を承認した。
5. JETS誌：檀原が担当になる。巻頭言は関野が担当し、9月発行予定。

Ⅱ. 第15回全国研究会議の報告
東部部会の資料から関野が説明。昨年の11月6日～8日の全国研究会議には162名の参加者。最終的な会計報告の提出を東部部会に求めた。全国研究会議の総括があり、各理事からの感想と次回への期待を聞いた。分科会がなかったので、もっと参加型がよいとの意見があった。

Ⅲ. 2020年全国研究会議
・西部部会が担当となり、その準備報告があった。2020年11月8日から10日にかけて、大阪クリスチャンセンターで開催予定との提案があり、承認された。
・来年の全国理事会には各部会の担当者を決定して送ってもらう必要がある。各部会の担当者を各2名、秋ぐらいまでにあらかじめ決めて西部の書記に連絡してほしい。
・テーマとしては『宣教論』が良いのではないか。福音主義がポジティブに同じ方向を向くのは良いのではないか。伝道を神学する。宣教論と教会論も併せて考えてはどうかというような意見が挙がった。

Ⅳ. 次回全国理事会開催日程と場所
・6月3日11時～16時、名古屋国鉄会館、次回の全国研究会議の準備会を最初に持つ。開会のみ言葉
担当者：関野

・閉会の祈り：関野

日本福音主義神学会　全国　会計

2017年度決算報告　および　2018予算

収入の部			
項　目	2017年度予算	2017年度決算	2018年度予算
東部分担金	360,000	360,000	360,000
中部分担金	70,000	70,000	70,000
西部分担金	400,000	400,000	400,000
学会誌売上	100,000	55,407	50,000
広告収入	150,000	130,000	150,000
献　金	0	200,000	0
雑収入	0	0	0
基金から繰入	0	0	0
前年度繰越	934,311	984,311	1,048,326
合　計	2,014,311	2,199,718	2,078,326

総　計		現 在 額	
項　目	金　額	項　目	金　額
出版基金	1,208,421	郵便振替	2,456,747
全国研究会議基金	200,000	現　金	0
次年度繰越	1,048,326		
合　計	2,456,747	合　計	2,456,747

支出の部			
項　目	2017年度予算	2017年度決算	2018年度予算
学会誌出版費	800,000	800,000	900,000
全国理事会費	150,000	132,168	150,000
事務通信費	10,000	432	10,000
ニュース発行費	35,000	18,792	20,000
研究助成費	0	0	0
全国研究会議費	0	0	0
基金へ繰出	0	200,000	0
雑費・予備費	1,019,311	0	998,326
次年度繰越	0	1,048,326	0
合　計	2,014,311	2,199,718	2,078,326

2017年・全国研究会議会計報告

収入の部

科目			
準備金	200,000	全国会計より	
登録参加費	564,500		
会場献金	69,253		
合計	833,753		

支出の部

科目			
事務費	59,477		
会場費	122,000		
会議費	1,000		
講師謝礼	140,000		
接待費(会食)	66,949		
準備金返金	200,000		
東部会計へ繰越	244,327		
合計	833,753		

日本福音主義神学会の活動のさらなる発展のために、献金をお願いいたします。
郵便振替口座 01140-6-32221「日本福音主義神学会」

日本福音主義神学会ニュース
2018年9月1日発行

発　行　日本福音主義神学会
編　集　檀原久由
印　刷　(株) プレイズ出版